

平成23年度 元気な地域づくり 活動報告会

平成24年1月25日（水）13:30～16:00

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

◎事例発表

地 区：港南区 野庭及び周辺地区

テーマ：地域をあじわい、つながりをつくる講座

発表者：かつやま よしこ 勝山 淑子さん（野庭をあ・じ・わ・う企画スタッフ代表）

おのづか まさあき 小野塚 正明さん（野庭地区センター館長）

○小野塚 それでは、野庭地区センター自主事業「野庭をあ・じ・わ・う」の発表をさせていただきます。まず、地区の特徴と講座開催の経緯でございますが、私たちの住む港南区野庭町は、区のほぼ中央から南西にわたる、大きなまちで大規模な集合住宅や農業専用地区、新しいマンションの建つ地域などがあり、昔ながらの里山の風景を見ることができる場所も残っております。また、歴史のある神社仏閣や旧鎌倉街道、武相国境など、興味深いポイントも多く存在するところです。

野庭町の中でも大きな面積を占める野庭団地は、昭和40年代後半から50年代前半にかけて市住宅供給公社が開発した分譲の高層住宅で、隣接の市営住宅と併せて市内最大規模の集合住宅となっています。

最寄りの駅は、市営地下鉄の上永谷駅ですが、歩くと20分以上かかるところでございます。しかし、上永谷、上大岡、港南台などにバスが頻繁に出ており、交通の便は比較的良い地域となっております。

まずこの地区の特徴としましては、地区内や周辺に豊かな自然がたくさん残っているということが挙げられます。歩行者専用道路等が整備され、その周りに木々が茂り、そこを含め周辺の川や森に様々な生き物が生息しております。区役所が平成20年に野庭団地住民を対象に行った調査でも、「自然環境に満足している」と答えた人が大変多くおりました。

そのような恵まれた環境にある地域ですが、昭和40年代に整備された多くの集合住宅に共通することとして、団地住民の高齢化が進んでいることも確かです。区の調査に回答してくれた団地住民の年齢構成を見ますと、65歳以上の人が占める割合が31.6パーセントにも達し、横浜市全体の数値、これは平成20年1月現在ですけれども、18.4パーセントを大きく上回っているというような状況にあります。

このような状況の中で、これからも安心してこの場所で暮らしていくために、まずここに住む人たちが地域を見直し、地域に合った形でお互いに助け合える社会をつくっていく

ことが大切なのではないかと思います。そのためにはまず地域を知って、地域をもっと好きになる。地域で行われている活動や、地域にある施設、そしてそれに関わる人々を知り、つながりを持つ。活動団体や人がお互いに関係を持って、活動の継続や新しい展開が図れるようにする。地域活動の新しい担い手や新しい活動が生まれる土壌をつくることなどが求められます。

そのための一つの取組として、そこに住む人たちが地域をあじわい、つながりをつくるきっかけとなる講座「野庭をあ・じ・わ・う」を開催いたしました。

当初は区役所から地区センターや、スタッフとなる住民に声がかかり、区役所と地区センター主導で始まったものですが、2年目からは地域スタッフが主体的に企画運営に携わり、基本コンセプトを忘れないようにしながら、楽しく自由に進めています。そういう経緯の中でこの講座の目指すところですが、当初、区役所が掲げた目標は、「地域人材を発掘し、事後の地域活動へつなげる」、「地域の将来のキーパーソン間の連携強化、地区センターが地域貢献活動を積極的に支援していくためのモデルとする」といったことだったのですが、現在は、「自分の住む地域のことや、そこで行われている活動を知り、色々な人と知り合いになっていき、視野を広げる」、「講座で体験した活動や施設にその後も関わりを持って、お互いにプラスとする」、次に「スタッフ自身が従来にない横のつながりを持った集まりとなって、地域住民を巻き込み、活動を広げたり、枝葉のような活動が生まれるきっかけをつくったりする」といったところが変わってきたように思います。

実際、1期目の受講者が2期目からスタッフに加わったり、講座で訪れた保育園にスタッフや受講者がその後も度々訪問したり、地区センターや地域ケアプラザと気軽に付き合えるようになったりと、これまでこの講座に関わりを持ったスタッフや受講者、施設などの中に網の目のようにつながりができ始めている、ということがうかがえます。

次にこの講座の様子を、ここにいます勝山から説明をさせていただきます。

○勝山 野庭をあじわう企画スタッフの代表をしております勝山です。私たち野庭に住んでいる者が野庭を味わい、そしてつながりを求める、という目的のために講座を組みました。

1回目は、スタッフ同士は顔見知りですが、受講者は初めてということで、講座の内容は仲間づくりということも念頭に置きました。野庭には自然の農業の体験できるような場所があり、その食材を利用して、食べものによる仲間づくり、それからお話を進めたいということで、まず第一歩、1回目の講座ということで、とても大事なので、ここについて長く話し合いながら、食を通じて仲間のふれあいを楽しみました。

2回目は、野庭には子供たちがたくさんいます。保育園が二つあり、小学校が三つあり、幼稚園も四つあります。普段はなかなか保育園の中に入ることはできないのですが、企画スタッフであります保育園の園長先生の協力を得まして、保育園を訪問しました。そしてその保育園では、椅子などのペンキを塗ったり、折紙を作ったりして子供とふれあい、また、保育園で困っている斜面の草刈りも参加者が自主的に手伝っていただいて、きれいにすることができました。

3回目は、野庭には自然がいっぱいありますので、野庭の自然を散策しました。講師も地元の方がいらっしゃいますので、その方に案内していただき、野庭の草花の名前を教え

ていただきながら、皆さんで記念に公園のプランターのところに野の花をまいて、その水やりも受講生が自主的に散歩や買物の行き帰りに行ってくれました。

それから施設で何をしているのか知らないという声も聞きますので、野庭の地区センターと地域ケアプラザに行きまして、実際に地区センターの機能を学んだり、地域ケアプラザの方に車椅子の扱い方を教えていただいたりしました。土曜日に活動を行っていますが、参加者の子供たちも一緒になって車椅子に乗って、色々な扱い方を学びました。

それから、私たちの「野庭をあ・じ・わ・う」に居場所はないのですが、地域にはコミュニティールーム「ここ」という居場所があります。そこをなかなか訪問することができないのですが、この機会に企画スタッフの一人でありました「ここ」の所長にお願いして訪問いたしました。商店街の皆さんとお話しをした後に訪問し、「ここ」で毎月開催している歌声喫茶があるのですが、一緒に歌を歌うなど、楽しい体験をいたしました。

それから野庭には、先ほど説明がありました農業専用地区がありまして、農家の方が作物を作っております。そのお話も伺いましたし、実際にそこに行って農業の大変さも伺いました。そしてその作物が直売所に出ており、そこでもお話を伺い、最後は両手いっぱい野庭の野菜を購入することができました。

そして私たちは自分のところだけではなく、戸塚区のドリームハイツで既に活動しているグループの方にも来ていただきまして、グループの状況や予算、これから私たちも高齢化に向かってどのように活動しているのかなどお互いの意見交換もいたしました。

そして最後は、地元のお野菜を調理して食べながら、次回に向けての反省をいたしました。

そして、その中から企画スタッフに加わる方も出まして、次の平成22年度にはその方も含めて、また活動がより一層深まったように思います。今までは8回でしたが、今回は6回にしばり、深く掘り下げました。今までの野菜は、初めは少なかったのですが、今回はふんだんに使いましてオリジナルカレーを作って、そして「地域デビュー」ということも頭に入れながら、何をしようかということで、1回目は食べものと、それから色々なアイデアを出し合って、山形で行っている「だがしや楽校」というものがとても身近に感じて、「私たちならできるかな」ということで、本格的ではありませんが、そのようなお話をしまして、アイデアをいっぱい出してもらいました。

そして、次は少し外を回ろうということで、また野庭の自然を回りました。馬洗川という川沿いをただ単に回るのではなく、地元の大学生に講師をお願いいたしまして、草花、昆虫、それから川の中の生物と一緒に観察、なおかつ道端や川のごみを拾いながら、その日は自然を知ろうということで楽しみました。

そして1回目と考えました「だがしや楽校」を、次は子供と一緒にやろう、楽しもうということで幾つかアイデアを出しまして、今度は別の保育園に集まって一緒に「だがしや楽校」を行いました。

それから4回目は、地域との交流です。野庭地区センターと地域ケアプラザが併設されていますが、そこでそれぞれが店主になりまして、「だがしや楽校」を開催いたしました。子供たちも保育園とは違って地域の方ですので、また違った味わいがあったのかなと思っています。そこには大学生のボランティアグループの方が応援に来ていただきまして、新

間ドームに挑戦いたしました。

それから、野庭は歴史に恵まれた場所です。港南の歴史研究会というのがあり、その方に講師をお願いしまして、御一緒に散策をしました。

そして最後には、「野庭の野菜でおもてなし」、ボランティアデビューをしましょうということで、地域ケアプラザでは食事会がありますが、そこに私たちが地元の野菜を調理し、提供をしました。それは千葉の太巻き寿司のように、そしてその中味は横浜のバラ、それから野バラを中に入れました。皆さん喜んでくださいます、食べるのもったいないという声が上がって、お家に持ち帰り、楽しまれたというように伺っております。

できるだけ私たち企画者が企画するだけではなく、受講生も一緒になって企画運営していこうというのが大きなテーマになっております。

そして、平成23年度は3年目になりましたので、企画も多少上手になりましたが、あくまでも高齢者が色々活動するために人とのつながりを求めたいということで、1回目は「味わいの棚卸し」ということで、野庭の味わい方の色々な種をそれぞれグループに分かれて意見を出し合いました。それを基に5回目のプログラムを考えることになりました。

そして前回、野庭の歴史を散策したときに、お寺の住職の方に出会い、野庭の戦中、戦後のお話を伺っていましたが、受講者の心に残っており「もう一度お話を聴きたいな」ということになり、お願いしました。「私たちがお料理としてすいとんを作ろう」ということで現代風すいとんになってしまいましたが、すいとんを作って食べながら住職の方からお話を伺いました。

そしてまた、地域と交流ということでグレードアップした「だがしや楽校」を地区センター、地域ケアプラザのお祭りで開催しました。

そして1回目で話した自分たちでプログラムを作ろうと、色々な味わいの種を探して何回も話し合いました、自然散策が皆さんの求めているプログラムでした。その自然散策も野庭には知らない道があります。受講者の中にとっても詳しい方がおり、「けものみち」という細い、全く一人では行けないところの道がありますが、そこを案内していただきました。「ケモノミチ・ツアー」ということで、野庭の違った面を見ることができました。

そして最後には隣人祭を行いました。人とのつながりということテーマに、食べものを食べながらお話をしました。「だがしや楽校」では、子供たちや地域の人たちに新聞ドームやお魚釣りをしましたが、自分たちがそれをやっていませんでした。みんな楽しんでとても良かったという声は聞くけれど、自分たちでもやってみようよということで、隣人祭のときに新聞ドームと魚釣りを体験しました。やはり楽しむことで、皆さんとの、地域との共通の喜びを味わったと思っております。

講座を通じて色々なことが生まれました。保育園の草刈りは今でもずっと続いております。また、コミュニティールーム「ここ」では受講者からリサイクル品の提供があり、それが売れたというような言葉も聞きました。また、保育園の新年会にはいつも呼ばれまして、お魚釣り、福笑いなども一緒に遊んだりする交流も生まれました。また、受講生の中に、講師の方たちのグループに参加したいというような、そういう横のつながりもできたように思います。

そして何よりも一番皆さんが感じたことは、やはり地域内で知り合いが多くできたこと。

今までは、挨拶する人も少数でしたが、あちらこちらに顔見知りができ、色々お話をできた、挨拶できる回数が増えたということをととても喜んでおりました。

そしてこれからの活動に向けてですが、3年間で人脈を築きました。イベントの企画のノウハウも、多少身に付けました。そしてスタッフ、地区センター、地域ケアプラザ、保育園のつながりもできました。私たち高齢者、私なんかも特にそうなのですが、高齢者問題が野庭の周辺にはありますが、やはり人とつながり、そして色々な組織や団体とつながり、元気でみんないるということによって、少しずつ問題解決につながるのではないかと考えています。